

2024 年 6 月 12 日

学校法人三幸学園
大宮医療秘書専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 千葉 真一

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 千葉 真一（ヒューマンリソシア株式会社、株式会社日本教育クリエイト）
- ② 相馬 春乃（第 13 期卒業生）
- ③ 島田 貴司（飛鳥未来きずな高等学校 キャンパス長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 12 日（会場 大宮医療秘書専門学校 503 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 大宮医療秘書専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 丸山 政孝

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 千葉 真一

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理士を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

年間を通じて「人を育てる学校へ！！～すべての道は社会へつながる～」という教務テーマを掲げ、技能教育だけではなく、社会人教育に努めた。

就職後の離職率低減と ICT 化促進に向けた学校運営のペーパーレス化にも注力した。離職率低減に向けた取り組みとしては、卒業年次の在校生向けに「組織で働くこと」「新社会人に求められること」「報連相について」「新社会人としての姿勢」のテーマを設定し、研修を実施した。その結果、就職研修の辞退者が 2 名にとどまり、昨年度に比べ大幅に低減することができた。

ペーパーレス化に向けては、年間スケジュールや時間割などの紙面での配布を減らし、WEB 掲示板にアップする準備を進め、今年度より実施する。

② 学校関係者評価委員会コメント

・社会人に向けてのケースワークでは、報告・連絡・相談の内容が大事だとあらためて実感した。研修もさることながら、在学中に指導いただいた言葉遣いや社会人としての心構えが、社会人になった今、役立っているように感じる。(相馬委員)

・就職指導ではたくさんの先生が入ってくださり、ものすごく力を入れていると感じた。熱心に指導くださったのでありがたかった。(相馬委員)

・ペーパーレス化に向け、高校では課題や行事のアンケートがデジタル化している。教科書については、中学校はデジタルテキストが発行されているものの、高校はまだ紙の教科書を使用している。(島田委員)

・専門学校でも課題提出やレポートのデジタル化は検討できるように思う。(大久保教務課長)

・紙に書いた方が覚えやすい人もいるため、全てをデータにするのは難しいように感じる。(千葉委員)

・授業で使うパワーポイントなどが WEB にアップされていた場合、復習する際には活用できるが、実際に内容を覚えるとなると紙に書いた方が覚えやすいため、字で書くことも大事なように感じる。(相馬委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学生に向けた教育理念や目指すべき職業人像については、入学当初に実施するスタートアッププログラムで周知しているものの、保護者に向けては年度当初に実施するオンデマンド配信のみのため、保護者への周知に課題が残る。

②今後の改善方策

・入学前保護者説明会を対面で行うことで、保護者に学校理念や教育方針・目指すべき職業人像をご理解いただく機会を設ける。
・教科担当を含む全教員からも学生へ浸透できるよう、全教員が集まる会議でも伝え続ける。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・教育理念について入学当初に聞いた記憶はある。1 年次のホームルームや未来デザインプログラムの授業でも聞いたような気がする。（相馬委員）
・半数以上の職員は理念を理解していないと思う。その為、名札の裏に理念を書いた紙を入れておき、常に目に入る環境下にしていたことはある。（千葉委員）
・高校は始業式と終業式があるので、都度触れるようにしている。月に一度行事があるので、生徒への浸透という意味では伝える機会が多くある。保護者へは年に1度の保護者会で伝えている。（島田委員）
・教職員に関しては、理念を深く理解している人が多いと思う。誰に聞いても理念は答えられると思う。（島田委員）
・

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・テストの採点などはまだアナログで実施しているものが多いため、効率のよい方法を模索している。

② 今後の改善方策

・学校の WEB 掲示板でテストを実施し、ペーパーレス化できるよう進めていきたい。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校では AI が自動で採点している。（島田委員）

・高校は国で教育指導要領が決まっており、統一のテストを行っているため、AI を取り入れることができています。デメリットは学校ごとにテストを作ることができないため、学生の習得状況に合わせることができないという点である。（島田委員）

・専門学校もシラバスは全国統一のため、取り入れられる部分を検討していきたい。（三坂主任）

・高校でも紙の教科書を使用していたため、専門学校で違和感を覚えたことはない。（相馬委員）

・今後の新入生はデジタル教科書を使用している可能性があるため、対策を検討していく必要がある。（大久保教務課長）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・WEB 上で生徒状況を共有し、教員全体で生徒の学習支援ができるよう試みたが、直接のコミュニケーションが足りず、細かなフォローには至っていなかった。

② 今後の改善方策

・直接のコミュニケーションで担任や教科担当が連携できる仕組みをつくり、対面とICTを活用して、より効率的な学習支援が行えるようにしていく。
 ・学年会を実施し、直接コミュニケーションをとる機会をつくる。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・就職先を選ぶときに、ポジティブな面だけを話してくれる教員もいれば、ネガティブな面も包み隠さず話してくれる教員もいて、教員によって違いがあると感じた。（相馬委員）

・受け持っている授業数や教科、教員が大事にしている価値観も違うため、一つの事象に対しても統一した回答をすることは難しいように感じる。かといってそれが間違っているわけでもないため、難しい課題のように感じる。（千葉委員）

・教員の数が増えれば増えるほど様々な価値観があるため、クラスの方向性やぶらしたくない方針などを年度のはじめに伝える機会を作ることが大切だと感じた。（三坂主任）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・卒業学年に向けては、社会人になったときのイメージを持つために、卒業生講話や社会人教育を実施したものの、就職活動に前向きでない学生へのフォローに課題が残った。
- ・進級学年に向けては、退学率が向上してしまったため、フォロー体制を確立していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・昨年度実施した卒業生講話や社会人教育は引き続き行いつつ、新たな取り組みとして、WEBでの連絡手段を確立し、こまめでスムーズな就職支援を行う。
- ・先輩との座談会を実施し、教員には言いづらい悩みなどを話せるようにしていくこと、のんびりスペースを作り教室以外でほっとできる場所を確保することで、心理的安全性を確保する。
- ・キャリア探究活動として公認欠席が認められるため、進路変更に踏み込む前にキャリア探究の機会を提供したい。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就職行事は夏季休暇前に行った模擬面接会が非常に為になった。できることなら1年次にもやりたかった。（相馬委員）
- ・行事とは別になるが、先輩と後輩の関わる機会が多くないと感じていたため、学習状況や就職の相談など、身近な先輩と関わる機会があると、より楽しい学校生活が送れるのではないかと思う。私だけではなく、複数の友人も言っていたため検討してほしい。（相馬委員）
- ・他校の専門学校や短大は、行事では関わる機会があるが、縦のつながりを感じられるような取り組みは実施していないと聞いたことがある。（千葉委員）
- ・高校では部活の先輩・後輩などつながりがあったが、専門学校に入ると希薄になるため、勉強面・生活面ともに関わりがあると嬉しい。（相馬委員）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・外部に出て課外活動をする機会がなかなか提供できていなかったため、通常授業プラスアルファの活動を今後増やしていきたい。
- ・卒業生が学校に気軽に顔を出せるような機会を増やしていきたい。

② 今後の改善方策

- ・学外実習以外でも現場に触れる機会が設けられるよう、ボランティアを募集している施設と連携していく。
- ・卒業4か月後に学内でホームカミング同窓会を開催し、卒業後も継続して関われる機会を提供する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業後もう一度授業を聞きたい、先生の面白い話を聞きたいと思うことがあったため、そういう機会があると嬉しい。（相馬委員）
- ・病院では、院内夏祭りの補助スタッフとしての活動や、インフルエンザなどのワクチン接種の誘導スタッフとしての活動を実施する予定だが、病院関係の課外活動が他にもあれば教えてほしい。（三坂主任）
- ・大きい病院であれば、ボランティアのコンサートなどを行っているため、設営のスタッフや七夕やクリスマスツリー・雛人形などの飾りつけを学生にお願いしたことはある。町会の盆踊りのお手伝いなどもある。ただ、病院側としてはまだコロナを引きずっているため、免疫のない学生を院内に入れてのボランティアなどは厳しい状況ではある。（千葉委員）
- ・卒業生を集めての同窓会を行うときに年次別にセミナーや講演会を実施してはどうか。どこの病院でも共通する患者対応などの勉強会を行ってもよいと思う。1年目・2年目・3年目とそれぞれの悩みに合わせた内容や先輩職員に相談できるようにしてもよいと思う。（千葉委員）
- ・大宮地区が開校して10年ほどのため、まだそこに着手ができていない。同法人の歴史の長い学校は、今お話頂

いたようなことを行っている。本校でもその先駆けとして、ホームカミング同窓会を開催する運びとなった。（大久保教務課長）

・同グループのクリエイトで病院向け研修を行っているので、そこと連携してテーマ別の研修を実施してもよいのではないだろうか。（島田委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・実技教室が今よりも充実すれば、より効率的・効果的な授業展開を実施できる。

② 今後の改善方策

・医学実習室の充実ができるよう、新校舎の活用をどのようにしていくか検討していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・募集状況については例年同数くらいの入学者がいるものの、今後の人口減少に向けた対策が必要となる。

② 今後の改善方策

- ・通信制高校出身者の増加に伴うフォロー体制にも注力していく。
- ・再進学者が魅力に感じる部分の打ち出しを強化していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・入学前に感じた雰囲気と実際に入学した後に感じた雰囲気にギャップはなかった。オープンキャンパスに複数回参加したが、想像通りの学校であった。（相馬委員）
- ・入学直後に実施されるスタートアッププログラムもギャップを埋められる非常に良い機会だった。（相馬委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・引き続き順守をしていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・病院でも入社時に研修があった。（相馬委員）

・毎年1・2回は全体向けに研修を行っており、特に個人情報・感染関連・災害対策には力を入れている。（千葉委員）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・分野特性上、なかなか外部活動に踏み込めておらず、実習以外での活動ができていない。

② 今後の改善方策

・産学連携担当が計画的に外部との連携機会を設定し、学生へ共有していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度まで実施に踏み切れなかったボランティア活動などを実施し、医療機関とのよりよい連携をはかれるようにしていきたい。また、学校行事をコロナ禍以前に戻せたことにより、より「この学校で成長できた」と感じられる運営ができるように積極的に参加を促していきたい。

在校生同士の関わりを増やすため、実習や検定のサポートなどコミュニケーションを取れるような機会を作っていく。また、卒業生と継続的に関わることができるよう、同窓会や卒業生講話などを開催し、より良いサポートができるようにしていく。

以 上